

今日の常識は明日の非常識

評議員 越村 繁

「イクニ作ろう鎌倉幕府」

学生時代、歴史上の出来事が起こった年を覚えるために、語呂合わせを使うことを良くやったものです。その中でも、最も有名な語呂合わせの1つが、冒頭に挙げた鎌倉幕府の成立でした。源頼朝が征夷大将軍に任ぜられた1192年を「イクニ」と読んで覚えたわけですが、最近の多数説では、どうもそうではないようです。

最近では、頼朝が壇ノ浦で平氏を滅ぼし、全国の警察権と守護・地頭の設置権を朝廷から得た「文治の勅許」が発せられた1185年が鎌倉幕府の成立年とされているのだそうです。「イクニ」ではなく「イイハコ」と覚えなければならないようです。たぶん、現役の大学生の方は、「イイハコ」の方で教わったのではないかと思います。



自然科学の分野でも同じようなことが、多々あります。例えば、私の学生時代(1970年代)、物質を構成する最小単位は「原子」とであると教わりました。と言いながら、「原子」は「原子核」と「電子」から成っており、さらに「原子核」は「陽子」と「中性子」から成ると教わりました。既に、この時点で、何が最小なのか、良く分からない状態です。

ところが、これでもまだ最小ではなく、「陽子」と「中性子」は3つの「クォーク」から成るとというのが、現在の常識です。しかも、当時の最先端の研究では、クォークについて、既にモデルが提唱され、発見もされていたのだそうです。

このように、学校で習ったことが、いつの間にか違ってしまっていることに、長く生きてみると、度々出くわします。

私は電力業界に身を置く者ですが、我が業界も今、大きく変わりつつあります。私が入社した頃(1980年代)の電力会社は、発電・送配電・販売の「垂直統合」による「地域独占」といった形で、事業が営まれておりました。電気料金の算定も、電力の安定供給を確保する観点から、適正な原価に、適正な資本コストを加える「総括原価方式」がとられておりました。

その後、電力自由化が叫ばれるようになり、1995年には卸部門が、2000年には大口需要家を対象にした小売部門の一部が、自由化されました。小売部門については、徐々に、その対象範囲が拡大し、2016年には、家庭を含む、全てのお客さまが自由化の対象となりました。都内のアパートに住んでいる地方出身者が、出身地の電力会社から、電気を買うことが可能になったわけです。

需要家保護の観点から、規制料金は経過措置として残ってはいるものの、料金は

お客さまとの交渉によって決められるようになり、従来の総括原価方式の考え方は、全く通用しなくなっています。競争も厳しくなり、既存の大手電力会社や新電力と呼ばれる新規参入者の間で、お客さまの取り合いが進んでおり、電力業界も随分、様変わりの状況になって来ました。

さらに、電力から1年遅れて、2017年には都市ガス事業も小売が全面自由化されました。首都圏では、東京電力と東京ガスが、それぞれ、電気とガスをセットで販売できるようになり、深キョンや指原といった有名タレントをCMに起用し、PR合戦を繰り広げています。

電気事業は、今後もさらに大きく変化していくことが予定されています。2020年4月からは、送配電部門を別会社化する「法的分離」が求められています。実際に電気を需要家に届ける機能と、契約をして販売する機能が、別々の会社に分けられることとなります。

また、電気事業者間での電気の取引については、現在は卸電力取引市場で行われていますが、今後は、ベースロード電源市場、容量市場、非化石価値取引市場といったものが新たに創設され、電気の価値を細分化して取引されるようになります。

こういった新しい制度環境の中で、最適な経営資源配分を行い、収益をあげていくことが、電力会社の経営に求められています。過去の経験や常識にとらわれず、新しい発想で立ち向かっていくことが大切であると実感しています。

日進月歩はおろか、秒進分歩とも言われるように、時代の変化のスピードは凄まじく、過去に身に着けた知識や理論が、月日が経つと陳腐化してしまうことは、従来以上に多くなっているのではないかと思います。

自然科学、社会科学を問わず、学術研究による新しい発見は、常に起こっています。そして、それが技術革新につながり、新たなシステムが生まれています。ディープ・ラーニング、5G、ブロックチェーン等、ちょっと見渡ただけでも、人間社会に大きなインパクトを与えるものが、次々と生まれています。そして、それらが、今後の社会のあり方、ひいては人の考え方を変えて行くことも容易に想定されます。

大した技術革新もなかった電気事業の分野ひとつとっても、30～40年で、これだけ大きく変わってしまいました。IT産業など、まさに最先端の技術を取り扱っている業界においては尚更ではないかと思います。

過去の経験から得られた「今日の常識」は、それはそれで貴重な財産ではありますが、その常識が、いつまでも常識でいられるかは、保証の限りではありません。常に新たな知見や技術・制度などに目配せをして、常識であるのかどうかのチェックを怠らないようにすることが大事なのだと思います。もし、それを怠ったならば、いつの間にか「明日の非常識」にとらわれ、間違った判断・行動を起こしてしまうかも知れません。変化の時代を生きる我々の宿命ではないかと感じる次第です。

北陸電力株式会社 執行役員 東京支社長